

山川智應

（1874-1954）

白蓮研究家、文學博士。

明治十二年三月十六日大阪

生れ、昭和二十一年六月一日歿（八七歳）。本名博之助。別號延

隆、白蓮、智應白蓮、武田之若、淨妙聖人、養谷等。明治二十六年田

中智學の正史文國會入會、二十年大阪文壇結集の最有才文藝誌『あこ

あこ草』同人となり、校正擔當。同誌の執筆した「京教家の文章」中

へ「巴智應師への語が智應の眼に止り、會衆團體『妙京』の編輯員に技

權せられ、爾後本化京學研究大會常任幹員、本化妙京復活布教隊主幹、

白蓮大業民報社社長等を務め、『妙京』、『白蓮主義』、『毒鼓』、

『白蓮新聞』、『大業民報』等の編輯主任、主筆として、執筆を交戦

以前既に四千四百篇に達してゐた。この期大正四年には、新潮社社

長佐藤義亮と謀り、『白蓮主義研究叢書』全九編を刊行して白蓮主義

流行の盛なりた。翌年『本化聖典大辭林』第一分冊を發刊（九年完

成）。

著書『白蓮法華經』（明治四十五年一月）、『増補改訂等』二版（一九

十四）『新潮社』。復刊・昭和十一年一月（千七百）『新潮文庫』（一）『高

白蓮』、『白蓮聖人』（姉崎勲風共編、大正十五年一月）『千七百の語』（

『白蓮聖人と耶蘇』（大正四年五月十八日新潮社）『白蓮主義研究叢書』、

改題増補新版『白蓮聖人と耶蘇著釋』昭和二十九年六月（千七百淨妙全集

刊行会）、『種々御振舞御書略註』（大正四年七月十七日新潮社）『白

蓮』、『白蓮聖人と親鸞』（大正五年一月）『千七百新

潮社』、『白蓮主義研究叢書』（一）、『白蓮主義と現代將來』（大正七年八

月十八日新潮社）『白蓮主義研究叢書』（一）、『白蓮聖人傳』講（大正

十年七月十日新潮社。『白蓮聖人傳』講（昭和二年五月）『新潮社』。

『日蓮聖人傳十講』上巻・十二年八月(二十一日)新潮社。『日蓮聖人傳十講』下巻・十七年八月(四日)、下巻・十一(二十一日)新潮社「新潮文庫」(一)、『佛教對マルクス主義の一斷面』(昭和四年九月(二十一日)天業民報社)、『日蓮聖人研究』(第一巻・昭和四年九月(二十一日)新潮社)、『經一齋』(武田之若谷、昭和八年九月十五日聖教社)、『法華思想史下の日蓮聖人』(昭和九年五月十日新潮社)、『日蓮聖人』(昭和十八年(一)月(二十七日)新潮社「新傳記叢書」(一)、『新講日本佛教列傳傳』(世六名合著・毎日新聞社編、昭和十九年九月一日(六)日出版株式會社)、『日蓮聖人石叢集』(完成、昭和十九年十月十一日宮内省藏版、新潮社「新潮文庫」(一)、『真日蓮主義普遍講經』(第一輯・昭和二十一年七月十日福茶川・節子十學會出版部)、『立願五十五年の春を迎へて』(昭和二十二年五月十日淨妙全集刊行會)等。

